



新潟南高等学校



2018年7月4日

## 江風探究ユニット②

### 探究テーマ「新潟市の課題を発見し、解決策を考えよう！」

「江風探究ユニット①」として4月～5月に、東西比較文化論を作成・発表することによって、情報収集力や考察力、表現力を養いました。

7月は「江風探究ユニット②」（全2回）を行います。内容は「新潟市の課題を発見し、解決策を考えよう！」です。「ユニット②」は、課題発見力や仮説設定力、考察力などを養うことを目的としています。

本日のLHR（70分）は、「ユニット②」の1回目を行います。以下の①～⑦の指示に従って、新潟市の課題を発見し、さらに解決策まで考えてもらいます。

まず、事前準備として、ジャンルや新旧を問わず、日常生活を振り返ってどんなことに不満や不便さを感じているか、思いつくものを書き出してもらいます（10分間）。これを「バグリスト」と呼びます（①）。

次に①で作成した「バグリスト」の中から「新潟市の課題」として考えるべき課題を1つ（or 2つ）、各自で設定します（②10分間）。

②で設定した「新潟市の課題」を解決するにはどうしたらよいか、各自で考えます（③10分間）。

その後、4～6人のグループを作り、「新潟市の課題」をグループ内で共有します（④10分間）。次に、④の中から1つ、「グループの課題」を設定します（⑤5分～10分間）。

そしてグループで話し合って、「グループの課題」の解決策を具体的に考えます。（⑥20分間）。最後に本時を振り返って（⑦10分間）、ワークシートを提出して終了です。

なお、7月23日か24日に、新潟市の担当者による講演会を予定しています。そこで新潟市の課題について説明をしてもらい、その課題にどう考えるかという「新潟市からの挑戦状」が問題提起される予定です。

#### 本時の流れ（70分）

- ①バグリストの作成（10分）→②「新潟市の課題」を各自で設定（10分）
- ③解決策の考察（10分）→④「新潟市の課題」の共有（10分）
- ⑤「グループの課題」の設定（5-10分）→⑥解決策の討議（20分）→⑦振り返り（10分）

### ①バグリストの作成(10分)

ジャンルや新旧を問わず、日常生活を振り返って、不便なこと・不満なこと、こうあってほしいと感じていることなど（これらをバグと呼ぶ）を、各自で思いつく限り列挙して、バグリストを作成してください。

### ②「新潟市の課題」の設定(10分)

①のバグリストから、「新潟市の課題」として考えるべき課題を1つ（or 2つ）、各自で決めてください。

- 【選ぶ際の基準】
- ・解決できる > 解決できない
  - ・一般性の高い大きな問題 > 些末な問題・特殊な問題

私が考える「新潟市の課題」は……

**③解決策の考察(10分)**

②で設定した「新潟市の課題」を解決するにはどうしたらよいか。解決策を各自で考えなさい。できるだけ具体的に書くこと。

**④情報の共有化(10分)**

4人から6人のグループになって、②の「新潟市の課題」を、グループで共有しなさい。

| 新潟市の課題 | 氏名 |
|--------|----|
|        |    |
|        |    |
|        |    |
|        |    |
|        |    |
|        |    |

**⑤「グループの課題」の設定(10分)**

④の「新潟市の課題」の中から、グループで検討すべき課題（「グループの課題」）を1つ選びなさい。なお、その際、表現を変えてもかまわない。

グループの課題

### **⑥解決策の検討と作成(20分)**

⑤で設定した「グループの課題」について、グループで話し合い、解決策を作りなさい。

【メモ】

【グループで考えた解決策】

### **⑦振り返り(10分)**

本時の活動を振り返り、別紙のアンケートに答えてください。

(本時の終わりに、このワークシートと別紙アンケートを提出してください。)

## 江風探究ユニット②（7月4日）事後アンケート【生徒用】

## テーマ「新潟市の課題を発見し、解決策を考えよう！」

（１）あなたの課題発見力は、活動の前後それぞれ 10 段階でどのくらいだと感じていますか？ 当てはまるところに○をつけてください。

| Level | ① | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10② |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 活動前   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |
| 活動後   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |

（２）あなたの仮説設定力（解決策を作り上げる力）は、活動の前後それぞれ 10 段階でどのくらいだと感じていますか？ 当てはまるところに○をつけてください。

| Level | ① | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10② |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 活動前   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |
| 活動後   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |

（３）あなたの考察力・分析力は、活動の前後それぞれ 10 段階でどのくらいだと感じていますか？ 当てはまるところに○をつけてください。

| Level | ① | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10② |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 活動前   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |
| 活動後   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |

（４）感想があれば自由に記入してください。

## 【参考資料】『アイデア大全』（読書猿 著）フォレスト出版より

### 「バグリスト」のレシピ

#### レシピ

- ❶ 紙かノートを用意して、タイマーを10分間にセットする。

- ❷ 不愉快なこと、出会った嫌なこと(バグ)を、ジャンルや新旧こだわらず、とにかく書き出す。

☞10分以内で手が止まり、書き出すバグが思いつかなくなったら「書きづらい＝考えたくない」ところに突き当たったか(そこにあなただのメンタルブロックがある)、あなたが例外的に平穏な人生を送っているか、いずれかになる。その場合は❸を飛ばして❹へ進む。

- ❸ タイマーが10分経ったと知らせたら、手を止める。

☞ネガティブ思考に浸かるのはそれぐらいで十分。もう少しで本当に書きたかったところまでいけそうなのに、という場合は5分だけ延長してもいい。

- ❹ 終わって気分がいくらかすっきりしたなら、

それを味わい、やる気をチャージし、やるべきことに取りかかる。

- ❺ さらに問題解決に取り組む気概まで生まれてきたというなら、今つくったバグリストか、これまでに書き溜めたバグリストを眺めて、1つか多くても2つ選び、その不愉快を改善／解決することを考えてみる。



### ★バグリストは発想的財産

バグリストは他から課題が与えられなくても、自分の中から発想の種を探す手法である。

イライラの種を書き出すことは、健康や幸福感を改善するだけでなく、アダムスによれば、創造力や発明心の優秀な着火剤を蓄積することにもなるという。その意味で、バグリストは継続的に新しい考えを必要とする人たちなら、習慣化すべきアクティビティであり、書き溜めたリストは発想的財産となる。（『アイデア大全』（読書猿 著）より）

### ★バグの選別がカギとなる

バグリストに並んだ不満の中には、容易に解消できるものもあれば、解決のしようがないと思えるものもあるだろう。世の発明は、そうした不満に応じて登場したものが少なくないが、数多ある不満の中で着手できたものはごく一部しかない。自分のイライラを書き出したリストとしばらく過ごせば、このことは実感できるようになるはずだ。

バグリストのうちから、どれを選ぶかについては、二通りのアドバイスがある。

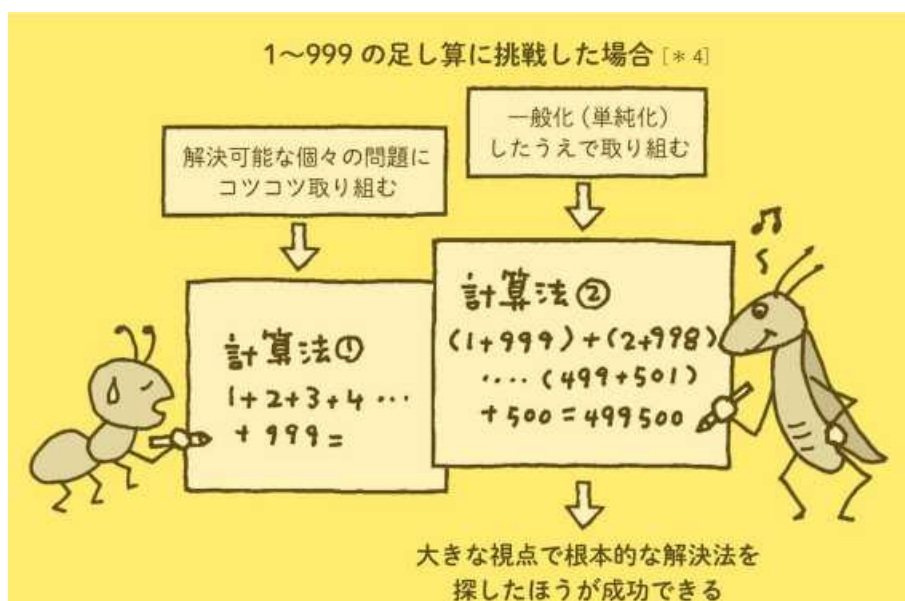
1つは「たくさんの不満の中から解決できるものを選び出すことが必要だ」というものである。

我々の資源も時間も有限であり、すべての不満を残らず解決することはできない。選択することを避けることができず、ゆえに不満や問題の目利きになることが求められる。バグリストを日ごとに眺め続けていると、少しずつその選り分けができるようになってくる。

もう1つは数学者のジョージ・ポリアが『いかにして問題を解くか』（丸善出版）※の中で「発明家のパラドクス」と呼んでいるものである。ポリアは、小さく些末な問題よりむしろ、より大きな問題、野心的な問題ほど実りが大きいばかりかじつは解きやすい、と指摘している。

一見すると逆に思えるが（だからこそパラドクスと呼ばれるのだが）、小手先の改善で間に合う小さく特殊な問題よりも、ものの見方や問題の捉え方に根本的な変更が必要となる一般性の高い大きな問題のほうが、何を変えればいかに気づきさえすれば、あっという間に解けてしまうものである。おまけに、気づきの効果は、これまで解けそうもないと思えた他の難問にまで波及する。

何より大きな問題に挑むほうがあなたの問題解決者としてのレベルをより向上させる。（『アイデア大全』（読書猿 著）より）



※ジョージ・ポリア『いかにして問題を解くか』は1954年に翻訳された隠れた名著。マイクロソフトでは、新入社員は『いかにして問題を解くか』を必ず読むことになっているらしい。鎌田